

校種を越えた防災タウンウォッチング (五感を使った防災教育プログラムの開発)

【活動内容の特徴】

防災教育の応用編+地域の災害・防災を知る

小中学校では、知識としての防災教育は受けているが、それを活用する機会がなかった。それぞれの**学びを繋ぎ、実生活に活用できる事業とした。また校種間でコミュニケーションを取る**ことで、連携する仕組みを作り、普段生活する街に潜む危険箇所や避難経路、避難場所などを確認することで防災にふれた。

【アピールしたい防災活動の成果】

災害図上訓練を現実の街での行動に反映する！

- ①校種間の交流の機会をつくり、お互いの学びや経験を増やす。
- ②五感を使って防災に触れ、自分の生活に活用する。

上記を目的とし、次の世代を担う子どもたちの新たな学びを行政、学校、地元防災士会がそれぞれの強みを発揮しながら創り上げた。



【活動内容の詳細】

「見つける」「やってみる」「考える」をキーワードに 防災の取り組みを「ジブンゴト」化する

教育委員会学校教育課長
市内学校への事業周知と
該当する学校への
協力依頼及び参加依頼

地元防災士
当日プレゼンの作成(調査)
コース並びにミッション設定
子どもたちへのレクチャー

民間教育支援会社社員
イベントの企画・全体調整
協力団体への依頼
広報ツールの作成



コースには、**ハザードマップ、AED設置場所、指定避難場所、秋葉神社(防火の神)、公衆電話、河川監視カメラ等、街中にある防災・災害に関わる施設を設定**した。それらをゲーム的要素を入れながら、見つけ触れることで、防災に親しむプログラムづくりを行った。

飛騨市学園構想では、校種間交流、学校・地域との連携、防災教育などのカリキュラム編成・実施を進めており、その試金石となる事業である。今後数年をかけて、市内各校区で実施できるように、地域学校協働活動推進員や防災リーダーも巻き込む計画を進める。

【活動成果】

<実施者から見た効果>

- ・**市教育委員会学校教育課が関わる**ことで、小中高の連携や市内への展開が容易となった。
- ・**防災士が関わる**ことで、街の防災に繋がる情報を探し、コンテンツやコース作り、防災活動のヒントとなった。街への活動PRになった。
- ・**教育支援会社社員のファシリテーション**能力により、資質能力ベースの学びの機会になった。

<参加者等から見た効果>

- ・**実際に街を周り、それぞれのミッションの意味を知ることで、次につながる行動を宣言**することができた。「親の電話番号をメモして通学バッグに入れる!」「家の周りの危険箇所を探す」等。
- ・これまでの学びを活かし**小学生がリーダーシップ**を取るなど、主体的に活動できた。